

平成27年度
大分大学大学院工学研究科
博士前期課程

学 生 募 集 要 項

一 般 入 試
社 会 人 入 試

選 抜 区 分	一般入試(口述型)	一般入試(筆記型) 社 会 人 入 試
出 願 期 間	平成26年 5 月 26 日(月) ～ 6 月 2 日(月)	平成26年 7 月 22 日(火) ～ 7 月 28 日(月)
試 験 期 日	平成26年 7 月 1 日(火)	平成26年 8 月 19 日(火) ～ 8 月 20 日(水) ※社会人入試は 8 月 20 日(水)のみ
合 格 者 発 表	平成26年 8 月 29 日(金)	

平成26年 5 月

目 次

ページ

○大分大学大学院工学研究科博士前期課程アドミッション・ポリシー	1
○大分大学大学院工学研究科博士前期課程ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）	4
○一般入試（口述型・筆記型）	
1 募集人員	6
2 出願資格	6
3 出願手続	8
4 出願書類等	8
5 障がいのある者等の事前相談について	9
6 選抜方法	10
7 選抜日時及び試験科目	11
8 試験会場	12
9 合格者発表	12
10 入学手続	12
11 入学料及び授業料	12
12 注意事項	12
13 第二次募集	12
○社会人入試	
1 募集人員	13
2 出願資格	13
3 出願手続	13
4 出願書類等	14
5 障がいのある者等の事前相談について	14
6 選抜方法	14
7 面接試験の日程，内容	15
8 試験会場	15
9 合格者発表	15
10 入学手続	15
11 入学料及び授業料	15
12 注意事項	15
13 その他	15
○工学研究科博士前期課程案内	
1 専攻の概要	16
2 専攻別授業科目	17
○出願様式等	
入学志願書，履歴書	
受験票，試験会場案内図	
入学検定料振替払込受付証明書（大学提出用）等貼付欄	
一般入試（口述型）推薦書	
研究（希望）計画書	
職務経歴書	
払込取扱票	
合格通知用住所シール	
受験票返送用封筒	
出願用封筒	

大分大学大学院工学研究科博士前期課程アドミッション・ポリシー

基本理念

質の高い特色ある教育と研究を通じて、世界に通用する科学技術を創造し、もって地域に貢献するとともに、豊かな創造性、社会性及び人間性を備えた人材を育成することです。

教育・研究の目標

学生の立場にたった教育体制のもとで、自らの課題を探求する高い学習意欲と柔軟な思考力を有し、国際基準を満たすゆめぎない基礎学力と高度の専門知識を備えるとともに、豊かな人間性と高い倫理観を有する人材を養成することです。

求める学生像

工学研究科博士前期課程では、環境や社会に対する影響も予見しながら自然との共生や、真に人類に役立つ技術とは何かを自ら考え、先進的科学技術によって人類福祉に貢献する意欲をもち将来への可能性を秘めている人を求めています。

以上の観点と本学の求める学生像から、具体的には、次のような人を求めています。

1. 工学の分野に強い関心があり、深い専門知識と高度の技術を身につけることをめざしている人
2. 新しい課題を自ら見いだす着想力を持ち、問題の解決に際しては計画的に調査や研究を行うことのできる強い意志をもっている人
3. 国際的な視野を有し、国際的に通用する能力や技術の獲得をめざしている人
4. 地球規模での課題に問題意識をもち、それらの課題と技術との融合について関心をもっている人

特に、各専攻では、次のような人を求めています。

〈機械・エネルギーシステム工学専攻〉

本専攻は、機械に関する基礎技術と利用技術、メカトロニクス、ロボティクスなどの制御の分野、新エネルギー、エネルギーの有効利用に関する技術開発および利用技術に重点を置く、機械工学・電気工学の総合的な教育と研究を行います。

以上のような教育理念に基づき、本専攻では次のような人を求めています。

1. 数学及び物理に関する基礎学力を備え、国語及び英語に関する基礎的な語学力も有し、自分の意見を論理的に説明できる人
2. 自ら問題を見だし、計画的にその解決をめざすことができるリーダーシップと行動力をもっている人
3. ものづくりに興味があり、そのために必要な深い専門知識を身につけて創造的な技術者や研究者となることをめざし、それによって人のために役立ちたいという強い意志をもっている人
4. 地球規模での課題に問題意識をもち、それらの課題と技術との融合について関心をもっている人

〈電気電子工学専攻〉

本専攻は、電気、電子、情報、通信等に代表される電気電子工学の広範な分野の中で、社会や環境に対する影響も予見しながら、人類の幸福・福祉に役立つ技術とは何かを積極的に考え、技術の発展や学問の進展に貢献することのできる人材の育成を目的にしています。

以上のような観点から、本専攻は次のような人を求めています。

1. 学部での基礎・専門科目の内容をよく理解して、最先端レベルでの電気電子工学の専門科目を学ぶために十分な能力をもっている人
2. 様々な学問分野に関心があり、その基礎や応用について自ら学び理解しようという知的好奇心をもっている人
3. 柔軟な着想力を持ち、何事にも積極的にチャレンジする行動力をもっている人

〈知能情報システム工学専攻〉

情報は現代の人間社会を構成する最も重要な要素であり、これを取り扱う技術が社会を左右することは既に明白な事実となっています。このような社会において、より高度で知的なIT（情報技術）の開発、普及が社会を発展させる源になると考えられます。

本専攻では、人の知を拡大する新世代知的IT革命の担い手となる国際的技術者・研究者を育てるという教育理念に基づき、次のような人を求めています。

1. 基礎から応用までの先端的な情報技術について学習と研究に取り組むことができる基礎的な能力と旺盛な知的好奇心をもっている人
2. 高度情報化社会において、新たな課題を自ら見つけだし、解決することを通じて、地域社会や世界に貢献したいという高い志をもっている人
3. 豊かな感性と表現力・コミュニケーション能力をもち、高度情報化社会の牽引者となることを志している人

〈応用化学専攻〉

私達が将来にわたって地球上で共存し幸福に暮らしていくためには、エネルギー・情報・環境に関して生じてくる複雑な問題を科学的に解決していかなければなりません。化学は物質の存在形態と変化の本質を明らかにしようとする学問ですから、種々の課題の解決における化学の知識と技術の重要性は、新しく形を変えつつますます大きくなってきています。

本専攻は、私達の生産活動、毎日の生活や自然現象を化学的な立場から自ら進んで考え、化学技術によって人類福祉に貢献することのできる技術者、研究者の養成を目標にしています。

応用化学専攻の教職員は、一生懸命自分を高めようと頑張る学生諸君を力いっぱい支援します。

以上の観点から、本専攻では次のような人を求めています。

1. 自然界や人間社会、産業社会のさまざまな状況について高い問題意識をもち、化学的観点から解決しようとする意欲をもっている人
2. 化学的現象について興味をもち、工学的立場から解明しようとする意欲をもっている人
3. 化学、物理、数学などについて専門分野を学ぶために必要となる基礎学力をもっている人
4. 英語、国語の基礎的語学能力をもとに、与えられた課題について論理的かつ柔軟な発想で考察し、発表することができる人
5. 化学に関連する各種専門分野について、高度な知識や能力を身に付け、技術者・研究者として活躍する強い意志をもっている人

〈建設工学専攻〉

本専攻は持続可能（サステイナブル）な生活環境を構想し、これを維持・発展させながら、より安全で安心して暮らせる社会を、建築学の立場から構築して行くことを目標としており、以下のような高い意欲と強い情熱を持つ人を求めています。

1. 建築学を構成するそれぞれの専門分野に応じた立場から社会に貢献するため、先端の知識を理解し、高度な技術力を修得しようとする人
2. 建築の技術・機能・社会性・経済性・芸術性を包括的に把握し、総合的な視点から意思伝達のできる能力を高めようとする人
3. 専門知識を研究課題設定に応用し、研究遂行において生じる問題点を克服する解決能力を身につけ、得られた知見を論理的に記述・伝達する能力を養おうとする人

〈福祉環境工学専攻〉

本専攻はすべての人が幸福を感じられる高度福祉社会を、工学的側面から実現するための研究開発と人材養成を行うことを理念にしています。本専攻ではこのような目標に向かって努力できる人を求めています。

・建築コース

住環境向上の側面から高度な福祉社会実現を構想し、安全で安心して暮らせる社会を具現化して行く

ことを目標としており、以下のような高い意欲と強い情熱を持つ人を求めています。

1. 福祉環境構築のためのそれぞれの専門分野から社会に貢献するため、先端の知識を理解し、高度な技術力を修得しようとする人
2. 生活環境向上のための工学技術を社会性・経済性・芸術性などから包括的に把握し、総合的な視点から意思伝達のできる能力を高めようとする人
3. 専門知識を研究課題設定に応用し、研究遂行において生じる問題点を克服する解決能力を身につけ、得られた知見を論理的に記述・伝達する能力を養おうとする人

・メカトロニクスコース

メカトロニクスとは、電気電子工学、機械工学、制御工学、情報工学等の基盤技術を統合して扱う工学です。本コースでは、すべての人々にとって生活の質の高い社会を実現するための工学を「福祉工学」と位置づけ、その実現のためにメカトロニクス技術を利用することを考えています。このような技術による装置は、今まで人にしかできなかった作業を可能にしたり、機能の障がいを持った人を支援したりすることに役立てられます。

本コースでは、メカトロニクス技術を通じて社会のニーズに貢献する高度な技術者・研究者の育成を目標とし、次のような人材を求めています。

1. 研究・開発能力を培うのに必要な電気・電子工学又は機械・制御工学を主とした専門基礎学力を有する人
2. 自ら課題を見つけだし、その解決に意欲を有し、研究に主体的に取り組む人
3. 人の生活の質の向上を目指す「福祉工学」分野の研究や技術開発を通して、社会に貢献したい人
4. 機械工学・電気電子工学・生体工学・人間工学などの幅広い分野を含めた「福祉」を目的とした学際的工学分野に興味がある人

入学者選抜の基本方針

本研究科では、前述の「求める学生像」にふさわしい学生を選抜するため、一般入試のほか社会人入試及び外国人留学生入試を実施し、学生を選考します。

・一般入試（口述型・筆記型）

口述型では、学部での成績が極めて優秀である者か、あるいは、志望する専門分野に関する十分な基礎能力を持つ者として出身大学等により推薦された者に対して、専門基礎学力に関する口述試験による学力検査及び出願書類審査を総合して判定します。

筆記型では、入学者の選抜は、学力検査（筆記試験及び面接試験）及び出身大学等の成績証明書を総合して判定します。

・社会人入試

各種の研究機関、企業又は教育機関等で活躍している社会人の研修の継続あるいは自己再教育の場として本学大学院工学研究科博士前期課程を開放し、併せて、生涯教育に寄与することを目的としています。入学者の選抜は、書類審査及び面接の結果を総合して判定します。

・外国人留学生入試

入学者の選抜は、学力試験、面接試験及び書類等を総合して判定します。

大分大学大学院工学研究科博士前期課程ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

大分大学大学院工学研究科博士前期課程では、研究科の教育・研究の目標に則り、以下のような資質と能力を修得し、かつ学位審査基準を満たした学生に修士（工学）を授与する。

1. 専門分野における高度な知識・技術を有し、科学技術の進展を見据えながら、自立した技術者として新たな知識・技術を継続的に修得することができる。
2. 専門分野の新たな課題を自ら探求・発見し、問題を俯瞰的かつ多面的に捉えて整理・分析しながら解決することができる。
3. 国際的な観点から科学技術に関する情報を収集・分析し、多様化する科学技術の発展に対応できる能力と技術を自ら学習・獲得することができる。
4. 地球規模で起きている課題を理解し、それらの問題と科学技術との融合に関して技術者の視点から考察し、人類の発展に主体的に寄与することができる。

〈機械・エネルギーシステム工学専攻〉

機械・エネルギーシステム工学専攻では、博士前期課程を通じて以下の資質と能力を身につけ、所定の授業科目を履修し、かつ学位審査基準を満たした学生に修士（工学）の学位を授与する。

1. 機械やエネルギーに関する高度な知識・専門技術を有し、科学技術の進展に対する世の中のニーズを見据え、自立した技術者として継続的に知識・技術を修得することができる。
2. ものづくりに常に関心を持ち、技術の発展のために解決すべき問題を自ら見だし、高い問題解決能力とリーダーシップを持って計画的にその問題を解決できる。
3. 豊かな教養と社会性および国際性を有し、国際的観点から情報を総合的に分析し、多様化する科学技術のニーズに対応する論理的思考ができる。
4. 地球規模で起きている課題を理解し、技術者の視点から考え、常に科学技術の利用価値を見出すことができる。

〈電気電子工学専攻〉

本専攻では以下のような資質と能力を身につけ、所定の授業を履修して必要な単位を修得し、かつ修士論文の審査に合格した学生には、修士（工学）の学位を授与する。

1. 電気電子工学全般にわたる広い知識を身につけ、それを活用することができる。
2. 電気電子工学の広範な分野の中で、自ら課題を探求し、問題を整理・分析しながら解決する能力が修得できている。
3. 国際的にも活躍できる技術者・社会人として必要な論理的説明能力が修得できている。

〈知能情報システム工学専攻〉

知能情報システム工学専攻では、研究科の教育・研究の目標に則り、以下のような資質と能力を修得し、かつ学位審査基準を満たした学生に修士（工学）の学位を授与する。

1. 専門的な知識と技能・継続性
情報・知能分野の専門知識・技術を有し、技術の進展を見据えながら、自立した情報技術者として新たな知識・技術を継続的に修得することができる。
2. 課題解決能力・問題発見力
専門分野に関する新たな課題を探求・発見し、問題を多面的に捉えて整理・分析し解決することができる。
3. 基本的技能・国際性
国内外の専門知識を得るための語学力と情報収集能力をもち、多様化する科学技術の発展に対応できる能力をもっている。
4. 社会との関わり・地球規模の視点
地球規模で起きている課題を理解し、それらを情報技術者の視点から考察して主体的に寄与することが

できる。

〈応用化学専攻〉

応用化学専攻では以下の資質と能力を身につけ、所定の授業を履修して必要な単位を修得し、かつ学位審査基準を満たした学生に修士（工学）の学位を授与する。

1. 自然科学の基礎知識と共に、化学および応用化学の高度な専門的知識を身につけている。
2. 化学および応用化学に関連する各種専門分野について、技術者・研究者として活躍するための高度な実験技術を修得している。
3. 自然界や人間社会、産業社会のさまざまな状況について高い問題意識をもち、そこで生じる課題に対して高度な専門的知識および技術を駆使して、論理的かつ柔軟な発想で分析・考察を行い、解決する能力を身につけている。また、それらの過程および得られた結果を適切に表現し、発信する能力も身につけている。
4. 日本語および英語で表現された専門的情報を的確に理解し、課題解決に活用できる。

〈建設工学専攻〉

下記の知識・能力を習得したものに修士（工学）の学位を授与する。

1. 建築学分野の包括的な専門的知識・能力
建築を芸術、技術、文化、社会、法律、経済などの多様な文脈と歴史やライフサイクルなどの時間的展開のなかで理解し、建築学に関する幅広い専門的知識と総合的かつ体系的な識見をもち、建築と生活環境に関する企画・設計・生産・維持管理などができる基礎的能力。
2. 建築にかかわる特定領域の高度な専門的知識・能力
建築企画、建築設計・計画、都市設計・計画、住居、建築環境、建築設備、建築構造、建築防災、建築材料、建築生産、建築運用・保全、建築保存・再生などの建築の特定領域に関するより専門的な知識をもち、それを実務に適用しうる能力。

〈福祉環境工学専攻（建築コース）〉

下記の知識・能力を習得したものに修士（工学）の学位を授与する。

1. 福祉環境向上のための包括的な専門的知識・能力
建築学を活かした福祉環境向上のため、芸術、技術、文化、社会、法律、経済などの多様な文脈と歴史やライフサイクルなどの時間的展開のなかで工学を理解し、幅広い専門的知識と総合的かつ体系的な識見をもち、建築と生活環境に関する企画・設計・生産・維持管理などができる基礎的能力。
2. 福祉環境にかかわる特定領域の高度な工学的な専門的知識・能力
福祉環境の向上に資するための企画、設計・計画、都市設計・計画、住居、建築環境・設備、建築構造、建築防災、建築材料、建築生産、建築運用・保全、建築保存・再生などの建築学を中心とした特定領域に関するより専門的な知識をもち、それを実務に適用しうる能力。

〈福祉環境工学専攻（メカトロニクスコース）〉

研究科の教育・研究の目標に則り、以下の資質と能力を身につけ、学位審査基準を満たした学生に修士（工学）の学位を授与する。

1. 福祉工学分野及びメカトロニクス分野の高度な専門知識を有し、またその分野の知識を継続して習得する能力をもっている。
2. 専門分野に関する新たな課題を見つけ出し、その課題を多面的にとらえ整理し、論理的に分析し解決する能力をもっている。
3. 国内外の専門知識を得るための十分な語学力と情報収集能力をもち、多様化する価値観や科学技術の発展に対応できる能力をもっている。
4. 高度福祉社会を工学的側面からの実現しようとする意志と、自立して研究を進める能力をもっている。

一般入試募集要項（口述型・筆記型）

1. 募集人員

専攻	コース	講座	募集人員
機械・エネルギーシステム工学専攻	機械	機械システム	27人
	エネルギー	熱事象学, エネルギー変換システム工学	
電気電子工学専攻	電気	制御コミュニケーション, 電磁ダイナミクス	27人
	電子	電子デバイス工学, 電子情報システム工学	
知能情報システム工学専攻		情報科学基礎, 計算機システム, 知能システム	24人
応用化学専攻		工業化学基礎, 応用生物化学, 機能物質化学	21人
建設工学専攻		環境計画, 構造設計	15人
福祉環境工学専攻	建築	人間環境工学	21人
	メカトロニクス	人間基礎工学, 人間システム工学	

※口述型の募集人員は、各専攻・各コースとも若干名です。ただし、電気電子工学専攻電気コースでは、口述型の募集を行いません。

2. 出願資格

次のいずれかに該当する者

- (1) 大学を卒業した者及び平成27年3月までに卒業見込みの者
- (2) 大学評価・学位授与機構から学士の学位を授与された者及び平成27年3月までに授与される見込みの者
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者及び平成27年3月までに修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより、当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び平成27年3月までに修了見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び平成27年3月までに修了見込みの者
- (6) 大学に3年以上在学した者、外国において学校教育における15年の課程を修了した者、外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了した者、又は我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者で、本学大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者
- (7) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定したものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び平成27年3月までに修了見込みの者
- (8) 文部科学大臣の指定した者
- (9) 他の大学に3年以上在学し、当該大学大学院に入学した者で、本学大学院において大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者
- (10) 本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、入学時において22歳に達している者

注1. 出願資格（6）及び（9）に該当する者については、出願前に入学資格の確認をする必要があるため、平成26年6月18日（水）までに学生支援部入試課に照会してください。

注2. 出願資格（10）については、短期大学、高等専門学校、専修学校（出願資格（7）に該当する者を除く。）、各種学校の卒業生やその他教育施設の修了者等であっても、個別の入学資格審査により本学大学院への入学資格を認めることができるものとしましたものです。これにより出願する者は、平成26年6月18日（水）までに学生支援部入試課に照会してください。

<口述型を出願できる者>

次の①～④のいずれかに該当する者で、合格した場合に入学を確約できるもの

- ① 高等専門学校専攻科を平成27年3月に修了見込みの者で、高等専門学校及び専攻科修得科目のうち、80点以上に相当する評価が、科目数又は単位数の比率で50%以上の者。ただし、電気電子工学専攻電子コースのみ60%以上のもの
- ② 大学を平成27年3月に卒業見込みの者で、3年次終了時における修得科目のうち、80点以上の評価が、科目数または単位数の比率で50%以上の者。ただし、電気電子工学専攻電子コースのみ60%以上の者。なお、本学出身者でこの出願資格を対象とするのは、機械・エネルギーシステム工学専攻エネルギーコース、電気電子工学専攻電子コース、福祉環境工学専攻メカトロニクスコースに限る。
- ③ 本学工学部を平成27年3月に卒業見込みの者で、3年次終了時の累積成績指標値が各専攻・各コースの定める数値以上の者。ただし、早期卒業対象者の累積成績指標値は2年次終了時のものとする。なお、電気電子工学専攻電子コースは、この出願資格を対象としない。
- ④ 志望する専門分野に関する十分な基礎能力を持つ者として出身大学等により推薦された者

注1. 出願資格④に該当する者については、出願時に推薦する指導教員の推薦書を提出してください。

注2. 本学以外の者の出願にあたっては、事前に志望する専攻・コースの学科長又は副学科長に、受験希望及び配属希望研究室をご連絡ください。

注3. 出願資格③の累積成績指標値は以下の表のとおりです。

専 攻	コ ー ス	累積成績指標値
機械・エネルギーシステム工学専攻	機 械	3.4
	エ ネ ル ギ ー	3.5
知能情報システム工学専攻		3.3
応 用 化 学 専 攻		3.8
建 設 工 学 専 攻		4.0
福 祉 環 境 工 学 専 攻	建 築	4.0
	メカトロニクス	3.5

注4. 口述型を出願する場合には、英語能力試験の成績証明書の提出は不要ですが、口述型試験を不合格の判定を受けた場合に筆記型の受験を希望する者は、英語能力試験の成績証明書の提出が必要となります。

<筆記型を出願する者>

筆記型を出願する者は、英語能力試験の成績証明書の提出が必要となります。ただし、以下の表のように、電気電子工学専攻電気コース志願者は希望者のみで、それ以外の専攻・コースは必須です。

専 攻	コ ー ス	英語能力試験の成績証明書の提出
機械・エネルギーシステム工学専攻	機 械	必須
	エ ネ ル ギ ー	必須
電 気 電 子 工 学 専 攻	電 気	希望者のみ
	電 子	必須
知能情報システム工学専攻		必須
応 用 化 学 専 攻		必須
建 設 工 学 専 攻		必須
福 祉 環 境 工 学 専 攻	建 築	必須
	メカトロニクス	必須

3. 出願手続

(1) 出願期間

<口述型>

平成26年5月26日(月)から6月2日(月)まで(必着)(土, 日を除く)

<筆記型>

平成26年7月22日(火)から7月28日(月)まで(必着)(土, 日を除く)

ア 受付時間は, 午前9時から午後5時までとします。

イ 郵送の場合は, 本学所定の封筒を用い, 書留速達にしてください。

(2) 提出先

〒870-1192 大分市大字旦野原700番地 大分大学学生支援部入試課 (TEL 097-554-7016)

注. 出願を希望する者は, あらかじめ志望する専攻の希望する指導教員と研究内容についてご相談の上, 出願してください。

4. 出願書類等

書類名	備考
(1) 入学志願書	裏面の履歴書も必ず記入してください。所定の欄に写真(縦4cm×横3cm, 上半身, 無帽, 正面向きで, 本人であると確認できるもの。)を貼付してください。
(2) 受験票	所定の欄に写真(縦4cm×横3cm, 上半身, 無帽, 正面向きで, 本人であると確認できるもの。)を貼付してください。
(3) 成績証明書	
(4) 卒業(修了)証明書又は卒業(修了)見込証明書	最終出身学校長又は学部長発行によるもの。
(5) 学士の学位授与証明書又は学士の学位授与申請申立書	大学評価・学位授与機構が証明したもの。(出願資格(2)該当者のみ) ※授与見込者の申立書については様式任意
(6) 英語能力試験の成績証明書注1)	筆記型を出願する場合, 電気電子工学専攻電気コース志願者は希望者のみ, それ以外の専攻・コースは必須です。 ※成績証明書は下の部分を切り離さずに全体を提出してください。 ※持参で出願する場合, 原本とコピーの両方を提出してください。(原本は確認後返却します。)
(7) 入学検定料振替払込受付証明書等(30,000円) ※国費外国人留学生を除く	①②のいずれかの方法でお支払いください。 ①金融機関(郵便局を含む)でお支払いの場合 本学所定の振込用紙を用い, 必ず窓口でお支払いください。(ATM不可) お支払い後は「振替払込受付証明書(大学提出用)」を受験票の貼付欄に貼ってください。 ②コンビニエンスストア(一部)でお支払いの場合 下記のURLから申し込み, 受付番号を入手後コンビニエンスストアでお支払いください。 お支払い後は「収納証明書(コンビニエンスストアによっては領収書)」を受験票の貼付欄に貼ってください。 ・パソコンからの本学ホームページ (http://www.oita-u.ac.jp/) メニュー→入試情報→入学検定料のコンビニ収納から申し込んでください。 ・携帯電話からの申し込みURL (https://www.oita-u.net/mobile/) ※フィルタリングサービスをご利用の携帯電話からは, アクセスできないことがあります。 ※手数料は本人負担です。 ※納付した検定料は返還できません。
(8) 返信用封筒(受験票返送用)	本学所定の封筒。あて名等を明記し, 362円分の切手を貼ったもの。
(9) 合格通知用住所シール	本学所定の用紙。(4枚とも同じ住所・氏名を記入し, 切り取らずに提出してください。)



注1) 出願書類(6)については、試験日の2年前から出願までの間に受験した下記のいずれかの英語能力試験の成績証明書(主催者等の証明印のあるもの)を提出してください。団体特別受験制度(カレッジTOEICもこれに含まれます)で受験した場合はScore Sheet(コピー不可)を提出してください。Score Sheetの原本は複写後、受験票に同封して返却します。なお、下記の5種類の英語能力試験科目の複数を受験した場合は、各自の判断で有利と思われるものを1つ選択して提出してください。

- ・ TOEIC(R) (Test of English for International Communications (公開テスト))
- ・ TOEIC(R)-IP (Test of English for International Communications – Institutional Program)
- ・ TOEFL(R)-CBT (Test of English as a Foreign Language – コンピュータテスト)
- ・ TOEFL(R)-PBT (Test of English as a Foreign Language – ペーパーテスト)
- ・ TOEFL(R)-iBT (Test of English as a Foreign Language – インターネットテスト)

なお、TOEFLの得点は、以下の方法により換算します。

- ・ TOEFL-iBT, TOEFL-CBT の得点は ETS のウェブサイトにある換算表によりTOEFL-PBTの得点に換算します。

<口述型の追加提出書類>

書 類 名	備 考
(1) 口 述 型 推 薦 書	本学所定の用紙(口述型出願資格④該当者)

5. 障がいのある者等の事前相談について

本学へ入学を志願する者のうち、障がいのある者等で、受験上及び修学上特別の配慮を必要とする場合は、平成26年7月2日(水)(口述型は平成26年5月9日(金))までに、下記の事項を記載して(様式任意)、医師の診断書を添え本学学生支援部入試課に提出してください。

- ・ 障がいの種類・程度
- ・ 受験の際に特別な配慮を希望する事項
- ・ 修学の際に特別な配慮を希望する事項
- ・ 日常生活の状況及びその他参考となる事項

6. 選 抜 方 法

入学者の選抜は、口述型又は筆記型のいずれかによって行います。

<口述型>

①受験資格の決定

受験資格の決定は、出願書類によって行います。なお、志願者のうち口述型の有資格者とならなかった者は、筆記型を受験することができます。その際、出願書類の再提出及び入学検定料の再徴収は行いません。

②受験資格結果通知

志願者には、平成26年6月18日（水）に受験資格結果通知及び受験票を本人宛に発送します。

③入学者の選抜

入学者の選抜は、専門基礎学力に関する口述試験による学力検査及び出願書類審査により行います。

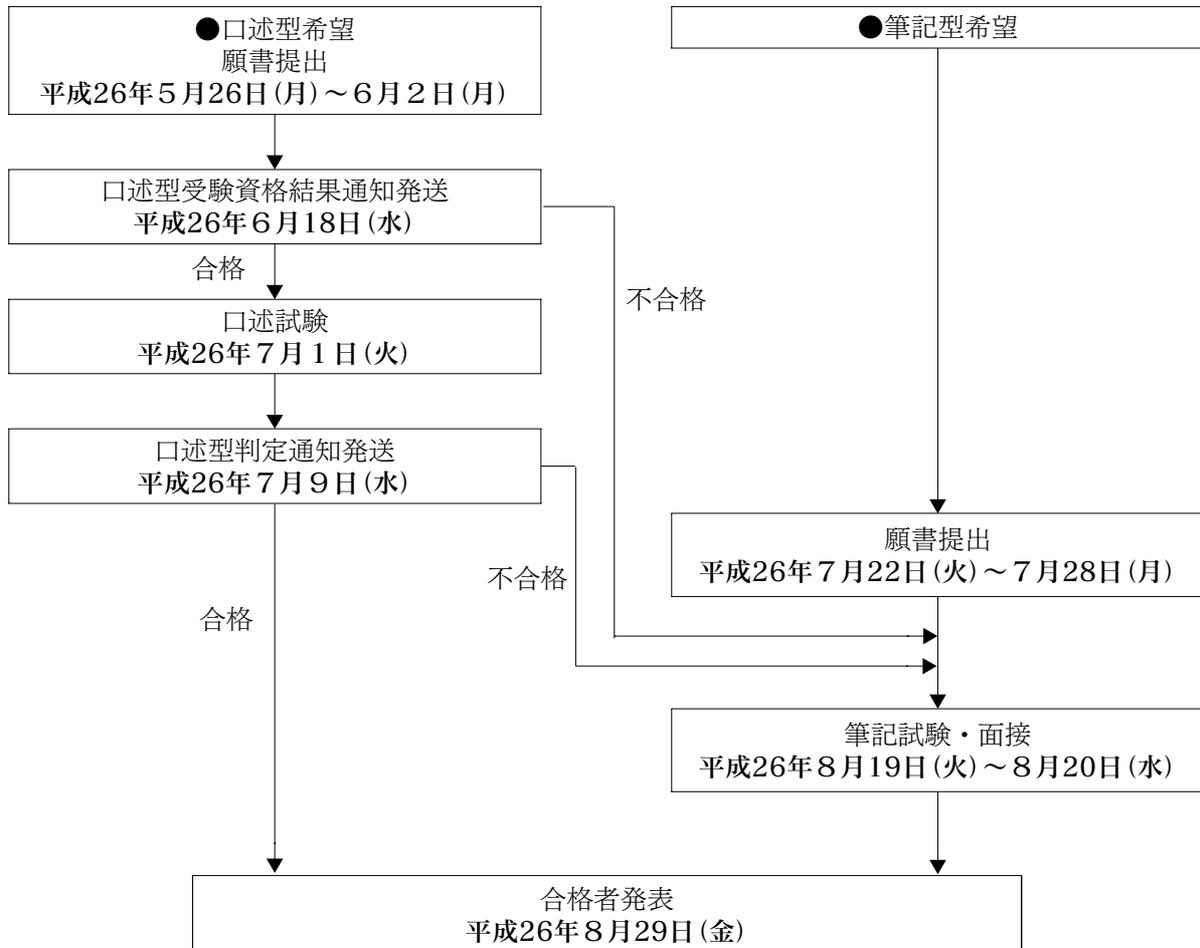
④口述型判定通知

専門基礎学力に関する口述試験による学力検査の判定通知は、平成26年7月9日（水）に本人宛に発送します。なお、不合格の判定を受けた場合、筆記型を受験することができます。その際、出願書類の再提出及び入学検定料の再徴収は行いません。

<筆記型>

入学者の選抜は、学力検査、面接及び成績証明書の結果を総合して行います。

口述型と筆記型の手順



7. 選抜日時及び試験科目

各専攻・コースに必要な試験科目を受験しなかった場合は、不合格となります。

<口述型>

期日	試験科目	時間
7月1日(火)	専門基礎学力に関する口述試験	10時

<筆記型>

試験科目 日時		外国語	専門科目		面接
専攻 コース		8月19日(火)10時～	8月19日(火)13時～	8月20日(水)10時～	8月20日(水)
機械・エネルギーシステム工学専攻	機 械	注2) 英 語	注1) 熱力学, 流体力学	注1) 機械力学, 材料力学	学力検査終了後に行います。
電気電子工学専攻	電 気 電 子		電 磁 気 学 電 気 回 路	電 気 電 子 数 学 電 子 回 路	
福祉環境工学専攻	メカトロニクス		工 業 数 学	注1) 機械工学(機械設計学, 機械制御<いずれも力学を含む>から出題) 注1) 電気工学(電気回路, 電磁気学, 電子回路から出題) の中から1科目選択	

試験科目 日時		専門科目	専門科目	面接
専攻 コース		8月19日(火)10時～	8月19日(火)13時～	8月20日(水)
機械・エネルギーシステム工学専攻	エネルギー	工 業 数 学		10時～
知能情報システム工学専攻		情報工学(計算機工学, アルゴリズム論, デジタル回路, 数理計画論, 多変量解析の5分野の中から4分野を選択) ※科目名は情報工学です。 ※※解答する4分野を志願書に下記の要領で記入してください。出願後の受験分野の変更はできません。 記載例: ①情報工学 (計算機工学) ④情報工学 (アルゴリズム論)		

試験科目 日時	専門科目	専門科目	面接
専攻	8月19日(火)10時～	8月20日(水)10時～	8月20日(水)
応用化学専攻	注1) 無機化学, 有機化学, 物理化学, 分析化学, 生物化学, 化学工学, 高分子化学の中から4科目選択		学力検査終了後に行います。

試験科目 日時		専門科目	専門科目	面接
専攻 コース		8月19日(火)10時～	8月19日(火)14時～	8月20日(水)
建設工学専攻	建 築	建築環境工学, 建築計画及び都市計画		9時～
福祉環境工学専攻		注1) 建築構造及び建築材料・建築生産に関する科目 <構造力学, 材料力学, 各種建築構造及び構造設計, 建築材料並びに建築施工の各科目を含む>		

注1) 関数計算機能を持つ電卓の持込みが可能です。ただし、プログラムが組める電卓は不可です。

注2) 外国語試験科目における英語能力試験の導入について

電気電子工学専攻電気コースでは、外国語試験科目において、換算式を導入し、筆記試験と英語能力試験を併用します。この場合、英語能力試験の成績証明書(出願書類(6))を提出しない者は、必ず外国語試験を受験してください。英語能力試験の成績証明書を提出する者は、外国語試験を受験しなくてもよいが、受験した場合には、筆記試験の得点と英語能力試験から換算した得点の高い方を採用します。それ以外の専攻・コースでは、外国語試験は実施せず、英語能力試験の成績を採用します。

8. 試験会場

大分大学工学部

9. 合格者発表

合格者は、下記の日時及び場所に掲示するとともに本人に通知します。

日時 平成26年8月29日(金) 10時

場所 大分大学教養教育棟前の中央掲示板

また、中央掲示板に掲示後、本学ホームページ(<http://www.oita-u.ac.jp/>)にも合格者受験番号を掲載します。

なお、電話による合否の照会には応じません。

10. 入学手続

入学手続きは3月下旬に行う予定です。合格者には、2月上旬までに入学手続きに必要な案内を送付します。

なお、在職のまま入学される方は、入学手続き時に勤務先の入学承諾書を提出していただきます。

11. 入学料及び授業料

入学料 282,000円

授業料 535,800円(前期分 267,900円 後期分 267,900円)

(1) 授業料は前期と後期に分けての納付になります。ただし希望により前期分納付の際に後期分も合わせて1年分を納付することもできます。

(2) 入学料及び授業料については、免除・徴収猶予・奨学融資の制度があり、申請手続きは入学料・授業料の納付前に行う必要があります。

詳細については学生支援課奨学支援グループ(TEL 097-554-7386)までお問い合わせください。

(3) 入学料、授業料は改定の可能性があります。在学中に授業料改定が行われた場合には、新授業料が適用されます。

(4) 納付した入学料は返還できません。

(5) 国費外国人留学生については、納付する必要はありません。

12. 注意事項

(1) 入学志願者から提出された出願書類等に記載されている個人情報については、独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律及び国立大学法人大分大学個人情報保護ポリシーに基づき、入学者選抜に係る業務・統計処理などの付随する業務以外には利用しません。ただし、入学料・授業料免除(猶予)及び奨学金を申請した者にあつては、選考資料として利用します。

(2) 出願手続後は、書類の変更及び検定料の払い戻しはできません。

(3) 記載事項に虚偽の記入をした者は、入学後でも入学許可を取り消すことがあります。

(4) 最初に受験する科目の試験開始時刻の15分前までに各試験室に入室してください。

(5) 東日本大震災に関する特別措置(入学検定料等)につきましては、本学ホームページ「東日本大震災への対応に関する情報」でお知らせします。

13. 第二次募集

選抜試験の結果によっては、第二次募集(筆記型のみ)を行うことがあります。

募集要項は、11月下旬までに発表する予定です。

社会人入試募集要項

趣 旨

近年科学技術は多様かつ急速に発展しており、創造性豊かな指導的立場に立ち得る技術者、研究者の養成が求められています。このような社会的要請に応えるため、各種の研究機関、企業又は教育機関等で活躍している社会人の研修の継続あるいは自己再教育の場として本学大学院工学研究科博士前期課程を開放し、併せて、生涯教育に寄与することを目的としています。

1. 募 集 人 員

専 攻	コ ー ス	講 座	募集人員
機械・エネルギーシステム工学専攻	機 械	機械システム	若干名
	エ ネ ル ギ ー	熱事象学, エネルギー変換システム工学	
電気電子工学専攻	電 気	制御コミュニケーション, 電磁ダイナミクス	若干名
	電 子	電子デバイス工学, 電子情報システム工学	
知能情報システム工学専攻		情報科学基礎, 計算機システム, 知能システム	若干名
応 用 化 学 専 攻		工業化学基礎, 応用生物化学, 機能物質化学	若干名
建 設 工 学 専 攻		環境計画, 構造設計	若干名
福 祉 環 境 工 学 専 攻	建 築	人間環境工学	若干名
	メカトロニクス	人間基礎工学, 人間システム工学	

2. 出 願 資 格

次の各号のいずれかに該当する者で、2年以上官公庁、企業又は教育機関等に勤務の経験のあるもの

- (1) 平成25年3月以前に大学を卒業した者
- (2) 平成25年3月以前に大学評価・学位授与機構から学士の学位を授与された者
- (3) 平成25年3月以前に外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (4) 文部科学大臣の指定した者
- (5) 本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、22歳に達した者
- (6) 本学大学院において、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

注1. 出願資格(5)については、短期大学、高等専門学校、専修学校、各種学校の卒業生やその他教育施設の修了者等であっても、個別の入学資格審査により本学大学院への入学資格を認めることができるとしたものです。これにより出願する者は、平成26年6月18日(水)までに学生支援部入試課に照会してください。

注2. 出願資格(6)に該当する者については、出願前に入学資格の確認をする必要があるため、平成26年6月18日(水)までに学生支援部入試課に照会してください。

3. 出 願 手 続

(1) 出願期間

平成26年7月22日(火)から7月28日(月)まで(必着)(土、日を除く)

ア 受付時間は、午前9時から午後5時までとします。

イ 郵送の場合は、本学所定の封筒を用い、書留速達にしてください。

(2) 提出先

〒870-1192 大分市大字旦野原700番地 大分大学学生支援部入試課 (TEL 097-554-7016)

注. 出願を希望する者は、あらかじめ志望する専攻の希望する指導教員と研究内容についてご相談の上、出願してください。

4. 出 願 書 類 等

書 類 名	備 考
(1) 入 学 志 願 書	裏面の履歴書も必ず記入してください。所定の欄に写真(縦4 cm×横3 cm, 上半身, 無帽, 正面向きで, 本人であると確認できるもの。)を貼付してください。
(2) 受 験 票	所定の欄に写真(縦4 cm×横3 cm, 上半身, 無帽, 正面向きで, 本人であると確認できるもの。)を貼付してください。
(3) 成 績 証 明 書	最終出身学校長又は学部長発行によるもの。
(4) 卒 業 (修 了) 証 明 書	
(5) 学 士 の 学 位 授 与 証 明 書	大学評価・学位授与機構が証明したもの。(出願資格(2)該当者のみ)
(6) 研 究 (希 望) 計 画 書	本学所定の用紙に, 博士前期課程で学修したい研究課題(又は研究分野)及びその概要について1,000字以内にまとめたもの
(7) 職 務 経 歴 書	本学所定の用紙に, 研究・業務歴及び研究業績を記入してください。研究論文, 技術報告, 特許・実用新案等がある場合は, その業績を表す文書等の写しを添付してください。
(8) 入 学 検 定 料 振 替 払 込 受 付 証 明 書 等 (30,000円)	<p>①②のいずれかの方法でお支払いください。</p> <p>①金融機関(郵便局を含む)でお支払いの場合 本学所定の振込用紙を用い, 必ず窓口でお支払いください。(ATM不可) お支払い後は「振替払込受付証明書(大学提出用)」を受験票の貼付欄に貼ってください。</p> <p>②コンビニエンスストア(一部)でお支払いの場合 下記のURLから申し込み, 受付番号を入手後コンビニエンスストアでお支払いください。 お支払い後は「収納証明書(コンビニエンスストアによっては領収書)」を受験票の貼付欄に貼ってください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パソコンからの本学ホームページ (http://www.oita-u.ac.jp/) <input type="checkbox"/>メニュー<input type="checkbox"/>入試情報<input type="checkbox"/>入学検定料のコンビニ収納から申し込んでください。 ・携帯電話からの申し込みURL (https://www.oita-u.net/mobile/) <p>※フィルタリングサービスをご利用の携帯電話からは, アクセスできないことがあります。 ※手数料は本人負担です。 ※納付した検定料は返還できません。</p> 
(9) 返 信 用 封 筒 (受 験 票 返 送 用)	本学所定の封筒。あて名等を明記し, 362円分の切手を貼ったもの。
(10) 合 格 通 知 用 住 所 シ ー ル	本学所定の用紙。(4枚とも同じ住所・氏名を記入し, 切り取らずに提出してください。)

5. 障がいのある者等の事前相談について

本学へ入学を志願する者のうち, 障がいのある者等で, 受験上及び修学上特別の配慮を必要とする場合は, 平成26年7月2日(水)までに, 下記の事項を記載して(様式任意), 医師の診断書を添え本学学生支援部入試課に提出してください。

- ・障がいの種類・程度
- ・受験の際に特別な配慮を希望する事項
- ・修学の際に特別な配慮を希望する事項
- ・日常生活の状況及びその他参考となる事項

6. 選 抜 方 法

入学者の選抜は, 書類審査及び面接試験の結果を総合して判定します。

7. 面接試験の日程, 内容

専 攻	コース	日 程	内 容
機 械 ・ エ ネ ル ギ ー シ ス テ ム 工 学 専 攻	機 械	平成26年8月20日(水)午後	面接試験では, 専門科目 (志望する教育研究分野に 関連した科目), 英語(外 国の大学を卒業した外国人 の志願者は英語と日本 語), 研究業績, 研究計画 書等に関して口述試験を行 います。また, 研究(希望) 計画書及び職務経歴書につ いて試問します。
	エ ネ ル ギ ー	平成26年8月20日(水)10時～	
電 気 電 子 工 学 専 攻	電 気	平成26年8月20日(水)午後	
	電 子		
応 用 化 学 専 攻		平成26年8月20日(水)午前	
建 設 工 学 専 攻			
福 祉 環 境 工 学 専 攻	建 築	平成26年8月20日(水)午後	
	メカトロニクス	平成26年8月20日(水)10時～	
知能情報システム工学専攻		平成26年8月20日(水)10時～	

注1) 面接試験を受験しなかった場合は, 不合格となります。

8. 試験会場

大分大学工学部

9. 合格者発表

合格者は, 下記の日時及び場所に掲示するとともに本人に通知します。

日 時 平成26年8月29日(金) 10時

場 所 大分大学教養教育棟前の中央掲示板

また, 中央掲示板に掲示後, 本学ホームページ (<http://www.oita-u.ac.jp/>) にも合格者受験番号を掲載します。

なお, 電話による合否の照会には応じません。

10. 入学手続

入学手続きは3月下旬に行う予定です。合格者には, 2月上旬までに入学手続きに必要な案内を送付します。

なお, 在職のまま入学される方は, 入学手続き時に勤務先の入学承諾書を提出していただきます。

11. 入学料及び授業料

入学料 282,000円

授業料 535,800円(前期分 267,900円 後期分 267,900円)

(1) 授業料は前期と後期に分けての納付になります。ただし希望により前期分納付の際に後期分も合わせて1年分を納付することもできます。

(2) 入学料及び授業料については, 免除・徴収猶予・奨学融資の制度があり, 申請手続きは入学料・授業料の納付前に行う必要があります。

詳細については学生・キャリア支援課奨学支援グループ(TEL 097-554-7386)までお問い合わせください。

(3) 入学料, 授業料は改定の可能性があります。在学中に授業料改定が行われた場合には, 新授業料が適用されます。

(4) 納付した入学料は返還できません。

12. 注意事項

(1) 入学志願者から提出された出願書類等に記載されている個人情報については, 独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律及び国立大学法人大分大学個人情報保護ポリシーに基づき, 入学者選抜に係る業務・統計処理などの付随する業務以外には利用しません。ただし, 入学料・授業料免除(猶予)及び奨学金を申請した者にあつては, 選考資料として利用します。

(2) 出願手続き後は, 書類の変更及び検定料の払い戻しはできません。

(3) 記載事項に虚偽の記入をした者は, 入学後でも入学許可を取り消すことがあります。

(4) 最初に受験する科目の試験開始時刻の15分前までに各試験室に入室してください。

(5) 東日本大震災に関する特別措置(入学検定料等)につきましては, 本学ホームページ「東日本大震災への対応に関する情報」でお知らせします。

13. その他

社会人入学者等について, 長期履修制度を認めています。

長期履修制度とは, 標準修業年限(2年)を超えて, 4年以内の期間で計画的に教育課程を履修し修了することができる制度です。この間の授業料は, 履修期間に応じて按分することとしています。申請は, 入学手続き時です。

工学研究科博士前期課程案内

工学研究科博士前期課程は、学部における一般的及び専門的教養を基礎として、広い視野に立って工学の専攻分野を研究し、高度な学識と研究能力を養うものです。修業年限は2年で、各専攻所定科目について所定の単位を修得し、かつ、修士論文の審査及び最終試験に合格した者には、修士（工学）の学位が授与されます。

1 専攻の概要

〈機械・エネルギーシステム工学専攻〉

複雑化・高度化した現在、科学技術は、従来の機械工学・電気工学といった縦割りの学問形態のみでは対応困難となっています。本専攻では、専門領域の知識のみならず、それら枠組みを越えて幅広く問題を捕らえる視野をもった人材の養成を目指します。

このため、学生は、当初から各講座の研究室に属して、担当教員の指導のもとに専門領域の勉学研究を行うとともに、機械的・電氣的領域を中心として他の関連領域を身に付けるよう配慮されています。

〈電気電子工学専攻〉

学部で修得した専門的知識及び技術を基礎として、電気電子工学の分野で指導的な役割を果たす創造性豊かな研究者及び技術者の育成を目的としています。

このため、電気電子工学全般にわたる広い知識を身につけ、より精密な学識と研究及び研究指導能力を養うことに重点を置き、電気電子工学の分野に必要な授業科目が選択できるよう配慮しています。また学生は、制御コミュニケーション、電子デバイス工学、電磁ダイナミクス及び電子情報システム工学のいずれかの講座に属し、担当教員の指導により社会的要求に応え得る能力を身に付けるようになっています。

〈知能情報システム工学専攻〉

近年、情報処理システムは、スーパーコンピュータに見られる高速処理、学術情報システムに見られる大量処理、認知科学や人工知能に見られる知的処理等、急速に複雑かつ高度化が進みつつあります。

本専攻は、これらの進展に対処するため、基礎情報学、計算機工学、知識科学等にわたる高度の研究教育を行い、時代の要請する専門技術者、研究者及び教育者を養成することを目的としています。

〈応用化学専攻〉

本専攻では、化学の諸分野において指導的な役割を果たし得る研究者、技術者、教育者の育成を目的としています。特に近年、問題化してきた環境に配慮しながら、新素材、バイオ技術を開発できる第一線の研究者の育成を主な目的としています。このため、化学全般にわたる広い知識を教授し、これを実際の装置へ応用する能力を養い、かつ環境問題、エネルギー問題の解決に役立つための講義と研究指導が行われます。また、特定テーマについて研究を行い、実験を計画し、実行し、成果を解析するという第一線の研究者として必要不可欠な能力が育成されるように配慮されています。

〈建設工学専攻〉

本専攻は、学部で修得した建設工学全般にわたる基礎的知識・技術を基に、さらに advanced course としての建設工学及びこれに関連する分野の専門的素養を持った高度な技術者、研究者、教育者の育成をはかります。

学生は、担当教員の指導のもとに、講義等に出席し、勉学を行うことで高度な学識を修得します。また、環境計画（音光熱空気の建築環境と設備・建築計画・都市計画を含む）及び構造設計（建築材料・建築構造を含む）などの研究室に属し、指導教員のもとに専門的研究を行います。

〈福祉環境工学専攻〉

本専攻は、21世紀の福祉社会の要請に応える生活の質（QOL）の向上に貢献することを目的とし、日常生活における機能回復への支援や福祉的生活環境の実現、さらにはユニバーサルデザインなどに関する技術を総合的工学の立場から発展させ、福祉マインド、すなわち人間とそれを取り巻く環境をひとつのシステムとして考えられる人間性重視の設計思想をもった高度技術者及び研究者を養成するための教育・研究を行います。

2 専攻別授業科目

専攻	授業科目	授業科目
機械・エネルギーシステム工学専攻	機械設計学特論	粘性流体工学特論
	材料力学特論第一	流体計測特論
	材料力学特論第二	粘性流体工学特論演習
	熱工学特論第一	弾性力学特論第一
	熱工学特論第二	弾性力学特論第二
	伝熱学特論	電磁アクチュエータ特論
	流体工学特論	電磁流体工学特論第一
	流体力学特論	電磁流体工学特論第二
	流体機械特論	電磁エネルギー工学特論第一
	振動工学特論	電磁エネルギー工学特論第二
	機械力学特論第一	エネルギー制御工学特論
	機械力学特論第二	エネルギー変換工学特論演習第一
	精密加工学特論	エネルギー変換工学特論演習第二
	機械システム特論演習第一	非線形システム特論第一
	機械システム特論演習第二	非線形システム特論第二
	機械システム特論演習第三	電磁気計測工学特論
	熱流体工学特論第一	電気機器工学特論
	熱流体工学特論第二	電力工学特論第一
	熱エネルギー解析工学特論	情報処理特論第一
	熱エネルギー解析工学特論演習	情報数理特論第一
移動プロセス学特論	分離工学特論	
応用熱工学特論	特別研究	
電気電子工学専攻	電磁気学特論第一	情報伝送工学特論第二
	電磁気学特論第二	電子システム特論
	制御工学特論	電磁波工学特論第一
	制御システム特論	電磁波工学特論第二
	通信工学特論	応用電子工学特論
	音響工学特論	電気電子工学演習第一
	電気エネルギー工学特論	電気電子工学演習第二
	電気機器工学特論	電磁エネルギー工学特論第二
	電力工学特論第一	伝熱学特論
	電力工学特論第二	流体力学特論
	信号処理工学特論	情報処理特論第一
	電子物性特論第一	計算機システム特論第一
	電子物性特論第二	知能システム特論第一
	電気力学特論	認知科学特論
	電子回路特論第一	生体システム特論
	電子回路特論第二	特別研究
	電子機器特論	
情報伝送工学特論第一		

専攻	授業科目	授業科目
知能情報システム工学専攻	情報数理特論第一	知能システム特論第一
	情報数理特論第二	知能システム特論第二
	情報数理特論第三	知能システム特論第三
	数理工学特論第一	知識工学特論第一
	数理工学特論第二	知識工学特論第二
	生体システム特論	データベース特論
	情報処理特論第一	ロボティクス特論
	情報処理特論第二	コンピュータグラフィクス特論
	情報システム特論第一	通信工学特論
	情報システム特論第二	情報工学演習第一
	計算機システム特論第一	情報工学演習第二
	計算機システム特論第二	システム工学演習第一
	計算機システム特論第三	システム工学演習第二
	計算機設計特論	情報システム特別実習ⅠA
	システムプログラミング特論第一	情報システム特別実習ⅠB
	システムプログラミング特論第二	情報システム特別実習ⅡA
	システムプログラミング特論第三	情報システム特別実習ⅡB
	人工知能特論第一	学外特別研究
	人工知能特論第二	特別研究
	認知科学特論	音メディア処理特論
応用化学専攻	固体表面化学特論	応用化学特別演習第二
	有機材料化学特論	応用化学特別演習第三
	セラミック化学特論	応用化学特別実験第一
	材料工学特論	応用化学特別実験第二
	分離工学特論	システムプログラミング特論第一
	機能材料化学特論	伝熱学特論
	高分子材料化学特論	生体システム特論
	分析化学特論	情報処理特論第一
	生体模倣化学特論	学外特別研究
	無機構造解析特論	特別研究
応用化学特別演習第一		
建設工学専攻	建築環境工学特論第一	材料設計特論
	建築環境工学特論第二	建築耐久設計特論
	建築環境工学特論第三	建築生産工学特論
	建築設備計画特論第一	建築俯瞰特論
	建築設備計画特論第二	建築環境設計演習第一
	建築設備計画特論第三	建築設計特論演習第一
	建築・都市デザイン特論	建築構造設計演習第一
	福祉建築計画特論	建築材料設計演習第一
	都市計画特論	建築環境設計演習第二
	都市設計特論	建築設計特論演習第二
	建築計画設計特別演習第一	建築構造設計演習第二
	建築計画設計特別演習第二	建築材料設計演習第二
	建築構法特論	音響工学特論
	建築木質構造設計特論	生体システム特論
	建築構造設計特論第一	知能システム特論第一
	建築構造特論第二	知識工学特論第一
	建築構造特論第三	学外特別研究
	構造力学特論	建築設計インターシッブ
	建築材料工学特論	特別研究

専攻	授業科目	授業科目
福祉環境工学専攻	身体運動工学特論 人間工学特論 生体運動解析法特論 運動機能工学特論 生体情報システム工学特論 認知人間工学特論 環境情報学特論 人間基礎工学特別研究 人間基礎工学特別講義 人間環境工学特別講義 生体支援工学特論第一 生体支援工学特論第二 福祉音響機器特論 福祉ロボット工学特論 福祉ロボット工学演習 電磁アクチュエータ特論 福祉メカトロニクス特論 人間情報工学特論 機器回路設計特論 機器ダイナミクス特論 電子制御機器特論 機器制御特論 人間システム工学特別研究 人間システム工学特別講義 福祉環境工学ゼミナール第一 福祉環境工学ゼミナール第二 建築環境工学特論第一 建築環境工学特論第二 建築環境工学特論第三 建築設備計画特論第一 建築設備計画特論第二	建築設備計画特論第三 建築・都市デザイン特論 福祉建築計画特論 都市計画特論 都市設計特論 建築計画設計特別演習第一 建築計画設計特別演習第二 建築構法特論 建築木質構造設計特論 建築構造設計特論 建築構造特論第一 建築構造特論第二 構造力学特論 建築材料工学特論 材料設計特論 建築耐久設計特論 建築生産工学特論 建築俯瞰特論 建築環境設計演習第一 建築設計特論演習第一 建築構造設計演習第一 建築材料設計演習第一 建築環境設計演習第二 建築設計特論演習第二 建築構造設計演習第二 建築材料設計演習第二 人間環境工学特別研究 学外特別研究 建築設計インターンシップ 特別研究
共通	関数解析学特論第一 関数解析学特論第二 応用数学特論第一 応用数学特論第二 応用解析特論第一 応用解析特論第二 応用幾何学特論第一 応用幾何学特論第二 応用代数学特論第一 応用代数学特論第二 光工学特論 非線形動力学特論 結晶工学特論 物理有機化学特論第一 物理有機化学特論第二 システム設計解析特論 応用力学特論演習	システムLSI設計特論第一 システムLSI設計特論第二 生物工学特論I 生物工学特論II 触媒科学特論 環境材料科学特論 英語表現法特論I 英語表現法特論II M O T 特論I M O T 特論II M O T 特論III M O T 特論IV ベンチャービジネス論 学外特別実習A 学外特別実習B 技術開発特論

大分大学学生支援部入試課

〒870-1192 大分市大字旦野原700番地

TEL. 097-554-7016

FAX. 097-554-7472

(E-mail nyucenter@oita-u.ac.jp)

(URL <http://www.oita-u.ac.jp/>)